バラエティ豊かなラインナップ
チョコエッグ
本物のおいしさ
セコイヤチョコレート
フルタ製菓株式会社
〒544-0023　大阪市生野区林寺6-7-22

菓子・食品・パン関連資材専門紙　流通記者会加盟紙

菓業食品新聞

The Journal of confectionery

URL：https://okashi.info　e-mail：ks-news@okashi.info

令和8年　4月12日（日曜日）
（毎月12、22日発行）第2360号
昭和41年7月2日第3種郵便物認可

発行所　〒564-0053 大阪府吹田市江の木町11-38-618
TEL 06(6385)1717 FAX06(6385)0150
株式会社菓業食品新聞社
支社・京都
発行人　狩野　智子　　一カ年　8,800円

総務省統計

2025年15歳未満の子ども人口

1366万人、35万人減

15歳未満、総人口の11・1％

子どもの割合、51年連続で低下

2025年4月1日現在における子どもの数（15歳未満人口）は、前年に比べ35万人少ない1366万人で、1982年から44年連続の減少となり、過去最少となった。男女別では、男子が699万人、女子が666万人となっており、男子が女子より33万人多く、女子100人に対する男子の数（人口性比）は105・0（前年同）となっている。

子どもの数を年齢3歳階級別にみると、12～14歳が314万人（総人口に占める割合2・5％）、9～11歳が302万人（同2・4％）、6～8歳が278万人（同2・3％）、3～5歳が250万人（同2・0％）、0～2歳が222万人ずかに上昇し1974年に24・4％となったが、1975年から再び低下を続け2025年は11・1％（前年比0・2ポイント低下）で過去最低となった。子どもの割合は1975年から51年連続で低下している。

（1・8％）となっている。さらに、中学生（12～14歳）、小学生の年代（6～11歳）、未就学の乳幼児（0～5歳）の3つの区分でみると、それぞれ314万人（同割合2・5％）、580万人（同4・7％）、472万人（同3・8％）となっている。

子どもの割合（総人口に占める割合）は、1950年に35・4％と総人口の3分の1を超えていたが、第1次ベビーブーム（1947～1949年）の後、出生児数の減少を反映して低下を続け1970年に総人口の23・9％にまで低下した。その後、第2次ベビーブーム（1971～1974年）の増加でわずかに上昇し1974年以降は一貫して低下している。

男女別子どもの数

		2025年4月1日現在	2024年4月1日現在	対前年増減数
こどもの数（万人）	男女計	1366	1400	−35
	男	699	717	−18
	女	666	683	−17
	人口性比	105.0	105.0	0.0
総人口（万人）	男女計	12340	12400	−60
	男	6004	6032	−28
	女	6336	6368	−31
	人口性比	94.8	94.7	0.1
総人口に占めるこどもの割合（%）		11.1	11.3	−0.2

2025年 男女、年齢3歳階級別子どもの数

		こどもの数	未就学の乳幼児（0～5歳）			小学生（6～11歳）			中学生（12～14歳）
			0～2歳	3～5歳		6～8歳	9～11歳		
人口（万人）	男女計	1366	472	222	250	580	278	302	314
	男	699	242	114	128	297	142	155	161
	女	666	230	108	122	283	136	147	153
総人口に占める割合（%）		11.1	3.8	1.8	2.0	4.7	2.3	2.4	2.5

子どもの割合 沖縄県が最多

都道府県別の15歳未満の割合について、24年10月1日現在の統計によると、前年に比べ47都道府県すべてで減少となった。子どもの数が100万人を超えるのは、東京都、神奈川県のみ（22年までは大阪府も該当）となった。割合が一番多いのは沖縄県で23万1千人（15・8％）で、次いで滋賀県17万9千人（12・7％）、佐賀県10万人（12・7％）となった。一方、最も少ないのは、秋田県で7万9千人（8・8％）、次いで青森県11万4千人（9・8％）、北海道49万7千人（9・9％）となっている。

世界の統計（2024年値）による各国の子どもの割合では、人口4千万人以上の国で、韓国の10・6％に次いで日本は11・1％で2番目に低くなっている。3番目はイタリアで11・9％。一方、発展途上国では子どもの割合が高く、最多はコンゴ民主共和国で46・0％だった。24年の統計で、全世界の児童労働者（5～17歳）は1億3800万人（男子7800万人、女子5900万人）と推計（20年の推計から約2300万人減少）とされており、世界の子ども人口（5～17歳）の約13人に1人が児童労働をしていることになる。このうち子ども兵士や人身売買を含む危険・有害労働に従事する子どもは7900万人で、このペースではSDGsの目標にある25年までの全廃はおろか、その時点でも1億4000万人近くの子どもが児童労働をしていると推測される。

着ぐるみイベント

DAGASHIで世界を笑顔にする会 500カ所でイベント実施

（一社）DAGASHIで世界を笑顔にする会（秋山秀行代表理事）は、3月12日を「だがしの日」と制定し、今年で第11回目のイベント「だがしと笑顔の交換」を全国500カ所以上で実施した。

また、日本一のだがし売場（株大町）ではお菓子メーカーの着ぐるみが集合するイベントを実施した。

同会へは菓子協賛企業34社、特別協賛企業16社、子メーカー協賛企業29社と、合計79社が協賛している。昨年の台風22号、23号で被害をうけた八丈島や、一昨年に大地震で被災した能登半島の輪島市でも大きなイベントを開催した。

4面 大阪菓業青年クラブ総会
7～10面 ANKA令和7年統計
12面 小倉餡発祥顕彰式斎行